

「ケーススタディで学ぶ就職支援」を開催しました

～多様な受講生への的確な支援を展開するために～

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構香川支部
求職者支援課

1. はじめに

平成30年6月12日に公的職業訓練の実施機関向けの講座を開催しました。

職業訓練は受講者が早期に就職できるように、効果的な職業訓練の実施が求められます。

職業訓練は学校と異なり、様々な年齢や異なる経験を持つ人が参加する場であるため、受講生の求める職業訓練にはどうしても差異がでてきます。このため訓練の実施機関はそれぞれの状況に応じた適切な支援が期待されます。

職業訓練では、学科や実技の習得に加えて、個々のおかれている状況に応じた受講者への就職支援が重要となっています。

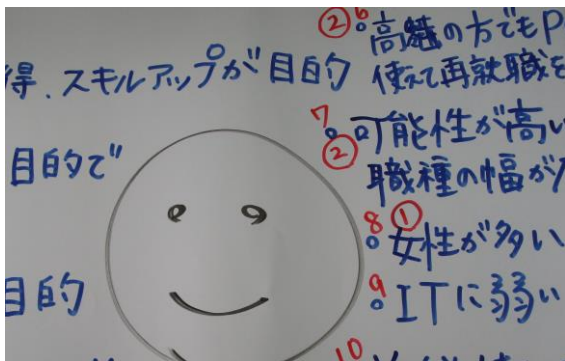
本コースでは実際にあったケースを紹介し、個々のケースへの対応について、参加者間で議論し、問題や課題を整理しました。



○職業能力開発講習の講座の実施風景

2. 多様な受講者について

受講者の訓練の受講目的をとっても、様々な分類が考えられます。参加者がこれまで出会った受講者にはどのようなタイプの方がおられたか、まず、意見を出し合いました。



受講目的、属性、受講者のおかれる状況、意識など様々な見方が提示されました。

こうした多様な受講者とコミュニケーションを図りながら、短期間で就職に向けた支援を行うことは大変な労力が必要とされます。

職業訓練における就職支援は訓練で学ぶ知識やスキルの習得状況を確認するだけでなく、これらの就職した知識やスキルをこれからどのように活かしていくのかを明確にしていくプロセスの支援が重要となります。

3. 就職支援の高度化

個々の受講者に応じた適切な対応をするためには、多くの経験が必要です。ケーススタディはこうした就職支援の経験について実例をもとに意見を出し合うことで、今ここの気づきを深めることができます。同時に、他の実務者の経験談や考え方に触れることで、自らのスキルの向上に役立てることが出来ます。

講師や事務担当者とも連携を図りながら、受講者一人ひとりと向き合う就職支援をどう展開するかを常に考え、ブラッシュアップしていくことが必要です。こうした積み重ねを通じてこそ受講者の期待に応えることができるようになるのではないのでしょうか。

4. おわりに

ここで受講者の声を紹介します。「これまで迷いながら支援の時間を担当してきましたが、「目的を明確に、初めにハッキリ伝える。自覚してもらおう。」「スケジュールを意識してもらおう。」を主に進めたら良いと思いました。」といった声を頂戴しました。

熱心に議論に参加いただき、厚くお礼申し上げます。

参加いただいたみなさまが一層、専門性を高めていただけたら幸いです。

(香川支部 求職者支援課記 2018.6.20)